

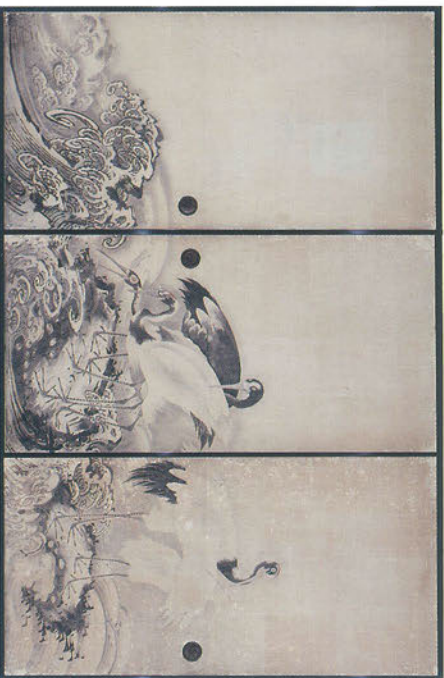


パブロ・ピカソ「ローマの女」1900年 三重県企業庁寄託

©2017-Succession Pablo Picasso-SPDA(JAPAN)



テオ・ヤンセン《グリーンリス・ホワイトラインズ》2006年



曾我蕭白《波瀾群島図横(旧永島家)》部分 1764年頃

開館35周年記念展 I ベスト・オブ・コレクション—美術館の名品

2017年4月22日|土|—6月18日|日|

—一般700(500)円/学生600(400)円/高校生以下無料

美術館ではこれまで独自の方針にもとづき作品収集をすすめてきました。本展はコレクションのなかから美術史において価値の高い特色ある作品を選び、大規模に紹介するものです。明治から現代までの日本美術では、浅井忠、黒田清輝から現代絵画に至るまで洋画を中心に美術史の流れをたどります。また、17世紀スペインの画家ムリーヨから近代のマネ、ルノワール、シャガールにいたる西洋美術コレクションの優品をまとめて展示。江戸期の画家、曾我蕭白の重要文化財「旧永島家襖絵」は前後期に分けて5年ぶりに全点を公開します。



テオ・ヤンセン《グリーンリス・ホワイトラインズ》2006年

開館35周年記念展 II テオ・ヤンセン展

2017年7月15日|土|—9月18日|月・祝|

—一般1,000(800)円/学生800(600)円/高校生以下無料

昆虫や動物のようなかたちをした、風で動く巨大な人工生命体「ストランドピースト」の制作で世界的に知られるオランダのアーテ・イスト、テオ・ヤンセン(1948-)。日本では未発表の最新作を中心にご紹介するとともに、1990年代の初期作品や、構想スケッチ、動きの秘密がわかる基本パーツに至るまで、テオの創造するピースト(生命体)たちの魅力に迫ります。近畿中部地方では初めて紹介される本展は、動くシーンも見られる家族で楽しめる企画で、科学や自然と結びついた世界的な現代アートの実物に触れる絶好の機会です。



鴨川井持《本居宣長七十二歳像》1801年
本居宣長記念贈蔵



宣長短冊 本居宣長 1801年
本居宣長記念贈蔵

開館35周年記念展 III 本居宣長展

2017年9月30日|土|—11月26日|日|

—一般1,000(800)円/学生800(600)円/高校生以下無料

本居宣長(1730-1801)は、江戸時代を代表する国学者。伊勢松坂(現在の三重県松阪市)の商家に生まれ、医者を生業としながら、『源氏物語』をはじめとする日本古典やことばの講釈、歌会、『古事記』研究などに精力的に取り組む、多様な活動を展開しました。「ものおはれ」を日本人の美意識を象徴するひとつの概念にしたのも宣長です。本展では、宣長が遺した自筆資料、著書、関連作品、遺愛品などの幅広い資料を通して、不世出の偉人・宣長の思考の軌跡を辿り、全体像をご紹介します。